

令和3年度 第2学期 終業式のことば

令和3年度2学期の終業式です。今回も放送で行います。

長かった2学期も今日で終わります。体育祭、翔陽祭、意義ある大きな学校行事を2年ぶりに無事開催できたことに加えて、卒業年次の皆さんは進路決定の勝負の時でもありました。部活動や検定試験で大きな成果を上げた人もいました。それぞれいかがだったでしょうか。

大きな達成感を得た人も多かった反面、後悔ばかりの人がいるかもしれません。いつも学期末には言うことですが、今一度しっかりと振り返って下さい。「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」とは有名な格言です。この言葉を信じて、反省を踏まえて次の年そして3学期につなぐことが大事だと思います。

それでは、終業式にあたり1つお話します。

ヤングケアラーという言葉を目にすることが多くなってきたと思います。もともとケアラーというのは介護する人、世話をする人、という意味ですが、18歳未満の人で学校の勉強も大切にしたいのに病気や障害のある家族や幼いきょうだいの世話をすることによりかなりの時間をとられてしまう人をヤングケアラーと呼んでいます。埼玉県では今年の3月に、このヤングケアラーを支援するための条例を作りました。

ヤングケアラーは身体的な介護だけでなく、食事の準備や片付け、洗濯、ゴミ出しといった家事、ケアが必要な家族の見守り、病院の送り迎え、話し相手など心理的ケアなどさまざまな役割を担います。本校では平成30年度、31年度に調査を行い、クラスに2、3人はこのヤングケアラーにあたる人がいる、ということが分かっています。

高校生くらいの年齢であれば家族のことを心配して家事を分担することはもちろんあるでしょう。しかし、負担が大きくなりすぎて学校の欠席や勉強の遅れ、友人関係が希薄になり孤独を感じてしまうなど身体面・精神面に影響が出てしまうようですと、見過ごすわけにはいきません。

先日は県の作ったリーフレット等を皆さんに配付しました。ヤングケアラーについて初めて聞いたけれども、自分はそうかもしれないと思った人、いままで困ったことだとは思わなかったけれどもよく考えてみると自分の生活に大きな支障がある、と気づいた人、家族のことで困っているけれど相談するのは気が引ける、と思わないで、学校の先生でもリーフレットの相談窓口でもかまいません。ぜひ相談してみてください。何か解決の糸口が見つかるかもしれません。

最後に、明日から冬休みに入ります。今後、コロナウイルスの感染状況がどうなっていくのか予測できません。3学期に予定していることが十分できるかどうか分かりません。どんな状況になろうと、学校は皆さんのために最大限の工夫を考えていきます。皆さんはワンステップ上を目指して、今できること、やっておくべきことを考え、時間を大切に、冬休みを過ごしてください。マスクをはずしての会話や飲食しながらの会話が感染のリスクが高いということは皆さん承知のことですが、それは今も変わりません。みんなが力を合わせていろいろなことを乗り切るためにも、コロナに気を付けることの必要性を今一度考えてください。冬休み中、部活の行き帰りに仲間と飲食店に寄りたりしないこと、個人で人の集まる場所に行く際は感染対策をしっかりとることを特に心に留めてください。健康にはくれぐれも留意し、不安なことは遠慮なく先生に相談してください。

それでは皆さん、また、元気に1月11日の始業式で会いましょう。